



50周年スローガン

下和泉小だより 2月号

令和6年1月31日

未来へ向かって 絆をつなごう ～笑顔満開 下和泉～



横浜市立下和泉小学校

副校長 玉置 智子

昔の人は1年で1番寒いこの時期を大寒と呼びました。しかし、今年は冬がくるのかな・・・というくらい暖冬が続いています。朝晩は寒い時もありますが、日中は、日差しがポカポカです。本来、この大寒が終わるのが2月3日です。そこでこの日を「季節の変わり目」ということで「節分」と



呼びました。「鬼は外！福は内！」その翌日、立春の旧暦では新たな年の始まりを表すことから、節分はさしずめ大晦日。豆をまいて1年の厄（鬼）を払い、新しい年を迎えたところですが、新年早々能登半島地震、羽田空港での航空機衝突事故がありました。その中でも感動した出来事として、全国高校サッカーに出場した神奈川県代表の日大藤沢高校が、能登半島を襲った大地震の影響で応援団が駆けつけられなくなった石川県の代表校の応援をしたことです。敵、味方の垣根を超えてスタンドからエールを送る姿を見て、考えて行動できることの素晴らしさを感じました。

さて皆さんは、2月の最終水曜日は何の日かご存じでしょうか？

物語の始まりはカナダ・バンクーバー。ピンクのシャツを着て登校した男子児童がからかわれ、いじめにあいました。それを知った上級生が「僕らもピンクのシャツを着ていじめストップを!!」との呼びかけにより、賛同した多くの児童がピンクのシャツや小物を身に付けて登校したことで、学校中がピンク色に染まり、「いじめ」がなくなったそうです。

これがカナダ全土から世界中に広がり、2月の最終水曜日を「ピンクシャツデー」と宣言しました。現在では約180以上の国や地域でのワールドアクションとなっており、神奈川県でもこの2月をピンクシャツデー月間としていじめ防止の取組を進めています。

2022年度の横浜市の公立小学校のいじめ認知件数は、前年度から4692件増の1万2248件で、過去最多を更新しました。そのうちこのような「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が多く、全体の半数以上を占めている。

「ピンクシャツデー」をきっかけに、もう一度、ふだんの生活を振り返り、＜誰もが楽しい学校＞の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。

